

B.island

2017年度の企画展 今年度も多彩な展覧会を企画しています。是非ご来館ください。

*展覧会名は仮称です。会期等は変更されることがあります。

マリメッコ展 — デザイン、ファブリック、ライフスタイル

2017年3月4日(土) ▶ 6月11日(日)



フィンランドを代表するデザインハウス、マリメッコの国内初となる大規模な巡回展。ファブリック約50点、ヴィンテージドレス約60点、デザイナーのスケッチなど、計200点以上の展示作品に加え、著名デザイナーへのインタビュー、ヘルシンキのマリメッコ本社にあるプリント工場の様子など、展覧会のために撮り下ろされた映像も。多彩な視点からマリメッコの60年以上にわたる歴史をたどり、個性あふれるデザイナーの仕事ぶりと活躍を紹介します。

ファブリック《ウニッコ》(ケシの花)、
図案デザイン:マイヤ・イソラ、1964年
Unikko pattern designed for Marimekko
by Maija Isola in 1964

レオナール・フジタとモデルたち

2017年6月24日(土) ▶ 9月3日(日)

都合により、PDFデータにおいては、
作品画像を掲載しておりません

「乳白色の下地」と呼ばれる独自の画面によつて、ヨーロッパで最も成功を収めた日本人画家レオナール・フジタ(藤田嗣治、1886-1968)。本展は、フジタの画業の中心である人物を描いた作品を、描かれたモデルに関する資料を交えて紹介し、画家のモデルに注ぐまなざしや制作過程、さらにフジタの人間性までもが浮かび上がるこことを期するものです。またフランスのエソンヌ県の特別協力によって出品される4点の壁画は、1点が縦横3メートルの大画面であり、フジタがモデル研究の集大成として挑んだ最初の群像表現です。

レオナール・フジタ 《アンナ・ド・ノアイユの肖像》1926年
OICII村記念美術館
© Fondation Foujita / ADAGP,
Paris & JASPAR, Tokyo, 2017 E2533

チームラボ 踊る! アート展と、学ぶ! 未来の遊園地

2017年11月23日(木・祝) ▶ 2018年3月4日(日)

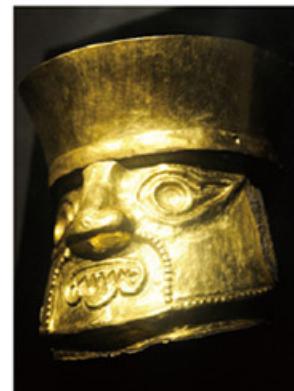


《花と人、コントロール
できないけれども、共に生きる
- A Whole Year per Hour
2015年》

東京で、2014-15年に約47万人の入場者を集めた話題の展覧会が、ついに新潟に登場します! 本展は、デジタル領域を中心に独創的事業を展開するウルトラテクノロジスト集団チームラボの、世界中で高い評価を得ているデジタルアート作品と、全国各地で子どもたちを楽しませている体験型の作品を結集し、展示室いっぱいに展開します。おとなも子どもも、テクノロジーとアート、学びと遊びの本質を発見し、未来を切り開くクリエイティブな活動に、自ら参加することになるでしょう。

古代アンデス文明展

2018年3月21日(水・祝) ▶ 5月6日(日) (予定)



《シカンの黄金のケロ》
中期シカン文化(紀元950-1100年)
国立ブルーニング博物館蔵

南米大陸西岸に栄えた古代アンデス文明の環境は、世界の他の文化に類を見ないほど多様でした。南北の広がりは4000キロメートル、標高差は海岸の砂漠地帯から4500メートルの高地にまで及び、それぞれの環境に様々な文化が花開きました。トマトやジャガイモなど今やなくてはならない食材も、古代アンデス人が育んだものです。本展覧会では、アンデスに人類が到達した先史時代から、スペイン人によるインカ帝国征服まで、1万年の文明史をたどります。

2017年度の所蔵品展

新潟県立近代美術館と万代島美術館で所蔵している
6,000点を超える作品の中からテーマを設け、新たな切り口で作品を紹介します。

うつくしい暮らし

2017年9月16日(土) ▶ 11月5日(日)

「もの」が溢れる現代にあって、「もの」に愛情を注ぎ、丁寧に向き合うことはむしろ容易ではありません。しかし、身の回りをゆっくりと見渡してみれば、しっかりと手に馴染み、気持ちをなごませてくれるものや、空間を生き生きとさせ、日常に一瞬の非日常をもたらしてくれるものが見つかるかもしれません。丁寧な手仕事や優れたデザインには、そんな「うつくしさ」が宿っています。本展では、当館所蔵の工芸作品や、デザイナー・亀倉雄策旧蔵のガラス器、陶磁器、絵画などを中心に、暮らしを彩る「うつくしいもの」をご紹介いたします。

都合により、PDFデータにおいては、
作品画像を掲載しておりません

スティグ・リンドベリ
《馬(スプリンガリ)》1960年(発表年)
© Stig Lindberg / BUS, Stockholm & JASPAR, Tokyo,
2017 E2543

Stamp Card

万代島美術館の所蔵品展と
近代美術館のコレクション展
に来場された方にスタンプ
カードを発行し、来場1回につ
きスタンプを1つ押印しま
す。スタンプを4つ集めた方
には粗品を進呈いたします。
どうぞご参加ください。

マリメッコ展—デザイン、ファブリック、ライフスタイル

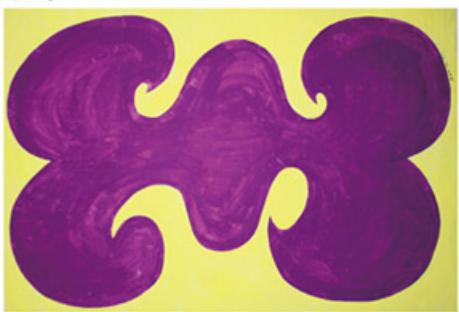
2017年3月4日(土) ▶ 6月11日(日)



ファブリック「ウニッコ」(ケシの花)、図案デザイン：マイヤ・イソラ、1964年
Unikko pattern designed for Marimekko by Maija Isola in 1964



ファブリック「シールトラバーチルハ」(市民菜園)、
図案デザイン：マイヤ・ロウエカリ、2009年
Siirtolapuutarha pattern designed for Marimekko
by Maija Louekari in 2009



図案「ヨケリ」(ヨーカー)のための水彩画、
紙にグフシュ、アンニカ・リマラ、1967年
Design Museum / Harry Kivilinna

一度目にしたら忘れられない、大胆で色鮮やかな花文様。フィンランドのデザインハウス、マリメッコを代表する図案「ウニッコ(ケシの花)」です。日本でも多くの熱心なファンを持つマリメッコですが、その60年以上に及ぶ歴史をたどる国内初の全国巡回展が当館で開催されます。

マリメッコの創業は1951年。第2次大戦後の混乱期でした。創業者アルミ・ラティアは綿のプリント生地によるシンプルな形のドレスを世に送り出し、新たな時代にふさわしい服として支持されました。1960年代にはアメリカでもブームとなり、今や世界中で愛される人気ブランドに成長しています。

マリメッコの一番の魅力はなんといってもそのヴァリエーション豊かな図案の数々にあるでしょう。「田舎の薔薇」「魔法の呪文」「使いこまれたラグ」など一点一点につけられた名前からも、図案そのものが大切に扱われていることがわかります。

本展は年代順にマリメッコの歴史をたどると同時に、そうした図案を生み出したデザイナー達に焦点を当てた構成となっています。アルミは才能ある人を見出すことに非常に長けており、ウニッコをはじめ500を越える図案をマリメッコのために考案したマイヤ・イソラの名は特に有名です。日本との縁も浅からぬものがあり、1968年には脇阪克二、1974年には石本藤雄が入社して、共にマリメッコを代表するデザイナーとなりました。



アトリエにて図案を描くデザイナーのマイヤ・イソラ、1960年代
マイヤは様々な技法で描き、デザインを考えた。
Design Museum / photo archives D.R. The organizer has made every possible effort in contacting the copyright holders. If the proper authorization has not been granted or the correct credit has not been given, we would ask copyright holders to inform us.

会場では制作の原点であるデザイナーの下絵と、ファブリックやドレスなどの製品とを比較しながら見ていただくことができます。

貴重なヴィンテージドレスの中では第35代アメリカ大統領夫人ジャクリーン・ケネディ着用のドレスも見どころの一つ。シンプルな形状のドレスは布地自体の持ち味が充分に活かされており、ウニッコの華やかさとはまた別の、マリメッコの魅力が詰まっています。

その他、デザイナーのインタビュー映像や、布地や図案のカラーサンプルなど、展示作品総数200点以上。このような内容の展覧会は当館でもはじめての試みで、展示室も普段とは全く異なる雰囲気となります。展示の感想もぜひ寄せていただきたいと思っています。



ジャクリーン・ケネディが購入したドレス「ヘイルヘルマ」、1959年
ファブリック「ナスティ」(小さな無頭針)、1957年。
服飾・図案デザイン：ヴォッコ・ヌレメスニエミ
Design Museum / Harry Kivilinna

池田珠緒(当館主任学芸員)

レオナル・フジタ《ライオンのいる構図》《犬のいる構図》《争闘I》《争闘II》1928年

企画展「レオナル・フジタとモデルたち」2017年6月24日(土) ▶ 9月3日(日)

フランスに渡り、「乳白色の下地」と呼ばれる独自の画面によって、時代の寵児となったレオナル・フジタ(藤田嗣治、1886~1968年)ほど、ヨーロッパで成功をおさめた日本人画家はいないでしょう。昨年は、フジタの生誕130年を記念する展覧会が相次いで開かれ

注目されましたが、本展も昨年に始まり国内の4会場を巡回するものです。

展覧会で特に注目してもらいたいのが、フランスからやってきた乳白色の4点の壁画<構図>と<争闘>です。これらはいずれも2点組で

対をなすと考えられ、1928年のパリの個展で発表されました。それが縦横3メートルという大作で、4点すべてが並べられる展示空間を体感してもらいたいと思います。なおこれらの壁画は、今後フランスで開館予定の美術館に常設展示されることから、日本の鑑賞はこれが最後の機会になると考えられます。

展覧会では、こうした作品とともにフジタと深い縁で結ばれた人々によって保管されてきた写真や書簡などの貴重な資料を紹介します。フジタは生涯で5人の女性を妻としましたが、その中で自身の画風も変化してきました。このように、5人の妻をはじめとするフジタが描いた数多くのモデルたちと画家との関わりに着目することによって、フジタという画家と彼が描いた作品の持つ背景が新たに浮かび上がることでしょう。

澤田佳三(当館業務課課長代理)

都合により、PDFデータにおいては、
作品画像を掲載しておりません

(左から) レオナル・フジタ 《ライオンのいる構図》《犬のいる構図》《争闘I》《争闘II》1928年
ミュゼ・メンソ = アトリエ・フジタ、エソンヌ県議会(DICHI村記念美術館展示風景)
© Fondation Foujita / ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2017 E2533

EVENT PICK UP イベントピックアップ

昨年度実施したイベントについてご報告します

講演会「ビアズリーの魅力を語る」

2016年5月28日(土)

ビアズリーと日本 2016年4月29日(金・祝) ▶ 6月26日(日)



新潟出身の漫画家・魔夜峰央氏をお迎えして開催しました。売れっ子挿絵家のビアズリーが仕事に飽きてしまわないよう、出版社は依頼されたものを描く仕事だけではなく、彼が自由に描ける仕事も与えていました。これには魔夜先生も「漫画家と同じ〜!」とビアズリーに共感、会場が盛り上がりいました。

カオナシがやって来る!

2016年8月14日(日)ほか4回

スタジオジブリ・レイアウト展

2016年7月16日(土) ▶ 10月10日(月・祝)

「千と千尋の神隠し」でおなじみのカオナシが美術館に登場。来館者の方と一緒に記念撮影会を行いました。合計5日間開かれた撮影会は大好評でした。カオナシの手が気になるようで、手を握って撮影される方が目立ちました。参加の方がカオナシに声をかける、ほほえましい場面もみられました。



アートコンプレックス&トーク「冬の遠吠え」

2016年12月23日(金・祝)

鴻池朋子展「皮と針と糸と」 2016年12月17日(土) ▶ 2017年2月12日(日)



イベントは心臓の音が響く、真っ暗な展示室の中で始まりました。途中、ホーメイ歌手・山川冬樹さん指導のもと、会場にいる全員で狼の遠吠えに挑戦。山川さんと遠吠えで呼び合う場面では会場に多くの遠吠えが響きました。いつもとは違う雰囲気の美術館を味わうことができました。

トーク「針と糸は物語る」

2017年1月21日(土)

鴻池朋子展「皮と針と糸と」 2016年12月17日(土) ▶ 2017年2月12日(日)



鴻池朋子さんと、おとぎ話研究家の村井まや子さん(神奈川大学外国語学部教授)による対談を行いました。鴻池さんの「物語るとは何か」という問い合わせに対する、村井さんの「それは自分の体験をオープンで焼くようなこと」という言葉が印象に残りました。

退任のご挨拶

2008年から9年間、新潟県立近代美術館の館長を務めた徳永健一館長が、2017年3月末をもって退任となりました。豊富な知識と人脈、そして気さくでおおらかな人柄で、近代美術館・万代島美術館両館の職員を率いて下さいました。退任にあたり、美術館とのこれまでの思い出を振り返っていただきました。



2003年に万代島美術館が開館しました。私はその年の4月に新潟日報社の事業局次長となり美術館との付き合いが始まりました。もともと美術が好きで自分でも時々絵筆を持ち、美術館に足を運んでいました。でもまさか近代美術館の館長になるなどとは想像もしませんでした。

開館初年に新潟日報社が主催に入ったのは「新潟の作家100人展」でした。このとき取り上げられた作家の皆さんの大半はいまも県の美術界で活躍しておられ、その選択眼はたしかだったと改めて思います。翌年の「大英博物館の至宝展」は14万を超えるお客様であふれ、私は人混みの後ろから覗き込んでようやく作品を見ることが出来ました。同時に長岡では「ルーブル美術館展」を開催し、両方見たことが飲み屋の自慢話になりました。

その秋の「大原美術館展」は、新潟日報社と万代島美術館がはじめて出資方式をとった展覧会でした。夜のレセプションでヘビースモーカー

だった私に、昨年亡くなられた伊藤文吉北方博物館長から「徳永さん、君みたいな若い人は煙草なんてやめなさい」と言われ、吸いかけのチューインガムの箱をねじって捨てて以来吸っていません。

2006年の「はばたく日本画展」では、美術館に来られない泉田知事においでいただきために、新潟古町芸妓の柳都さん3人を招き、知事も着物姿で鑑賞していただく企画を当時の小林保之館長と企み話題作りをしました。

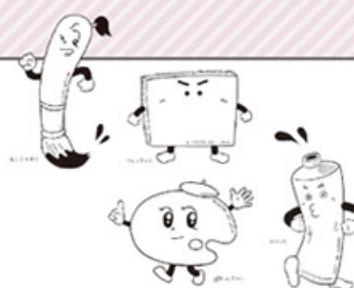
2008年からは近代美術館長として実行委員会方式の美術展の委員長を務めることになりました。2009年は「男鹿和雄展」、2010年は岩合光昭さんの「ねこ展」、2011年は「藤城清治展」がヒット、2012年の「シャガール展」は3万人にも達せず、10年前に近代美術館で開催した「シャガール展」の12万3千人の実績と比べ時代の変化を感じました。2013年の「清水寺展」は3万人に届かず、2014年は「近藤喜文展」が5万7千人、2015年は「蜷川実花展」が3万人、「醍醐寺展」は国宝重文を集めても苦戦と、ここ数年でお客様の美術館へ求めるものが変わってきたように思います。

この3月に近代美術館の館長を辞めます。お世話になりました。

徳永健一

NIIGATAアートリンク

新潟のアートシーンをもっと面白く、もっと元気にすることを目的に2012年度からスタートした「NIIGATAアートリンク」。新潟県立近代美術館・万代島美術館、新潟市美術館、新潟市新津美術館の4館でスタンプラリーを開催し、4館の展覧会を見てスタンプを集めの方に景品をお渡します。2017年度も多彩な展覧会をご用意して皆様のお越しをお待ちしています!



サポートメンバーを募集しています

万代島美術館では、皆さんに美術館により親しんでいただくために、サポートメンバー(ボランティア)を募集しています。内容は、美術館および展覧会のイベントへの協力と、当館の活動や展覧会準備の補助です。活動をご希望の方は、お電話にてお問い合わせ下さい。

TEL: 025-290-6655

新潟県立近代美術館(長岡市)の企画展

漢字三千年 — 漢字の歴史と美 —

2017年4月29日(土・祝) ▶ 6月11日(日)

没後90年 萬鐵五郎展

2017年9月16日(土) ▶ 11月19日(日)

ディズニー・アート展 いのちを吹き込む魔法

2018年2月17日(土) ▶ 5月13日(日)

生誕90年 加山又造 展 生命の煌めき

2017年7月8日(土) ▶ 8月27日(日)

堀口大學展

2017年12月2日(土) ▶ 2018年1月8日(月・祝)

【開館時間】午前9時～午後5時(観覧券販売は午後4時30分まで)
【休館日】月曜(ただし月曜が祝日の場合は開館し、翌日休館)、年末年始、展示替期間
【お問い合わせ先】〒940-2083 新潟県長岡市千秋3丁目278-14
TEL:0258-28-4111(代表) URL: <http://kinbi.pref.niigata.lg.jp/>

新潟県立万代島美術館 The Niigata Bandaijima Art Museum

Tel: 025-290-6655 FAX: 025-249-7577

新潟市中央区万代島5-1(朱鷺メッセ内 万代島ビル5階) URL: <http://banbi.pref.niigata.lg.jp/>



How To Access

新潟県立万代島美術館は、新潟市を貫く信濃川の河口にある複合施設「朱鷺メッセ」の中、万代島ビル(ホテル日航新潟と同じ建物です)の5階にあります。

新潟駅から

- バス……………約15分
(万代バス乗場より「佐渡汽船」行(3番線)あるいは「新潟市觀光循環バス」(2番線)に乗車。「朱鷺メッセ」下車)
 - タクシー……………約8分
 - 徒歩……………約25分
- 新潟空港から
- タクシー……………約20分

自動車(有料駐車場有り)

- 高速道路、北陸道(新潟西IC)・磐越道(新潟中央IC)・東北道(新潟亀田IC)から一般道へ、新潟バイパス・亀田バイパスを紫竹山ICで下り、栗木バイパスを新潟西港方面へ。

信濃川ウォーターシャトル(水上バス)

- 新潟ふるさと村から……………約50分
- 新潟市歴史博物館から……………約5分

開館時間 午前10時～午後6時

(観覧券販売は午後5時30分まで)

休館日 月曜日(展覧会によって月曜開館あり)、

展示替期間、年末年始(12/29~1/2)

*展覧会によって異なりますので、
展覧会ごとにご確認ください。

新潟県内の高等学校・特別支援学校が、教育活動として美術館に団体引率をする場合、所定の用紙で事前に見学の一週間前申請をすることにより、観覧料が免除されます。美術の授業、社会科見学、遠足などさまざまな形でご利用いただけます。